



ほろのべ

北緯45度のまち

議会だより

第76号

発行 北海道幌延町議会
編集 議会報発行特別委員会
電話 01632-5-1111
FAX 01632-5-2971

第6回 定例 幌延町議会

12月19日

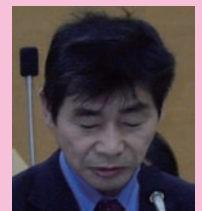
幌延町議会定例会が12月19日に開催され、報告1件、承認1件、監査委員の選任に関する同意1件、宗谷公平委員会に関する協議についてなど議案11件、森林・林業・林産業施策の積極的な展開に関する意見案1件、議案2件が審議された。

議決案件をすべて原案通り決定し、同日閉会した。

お も な 内 容	一般質問	2~4
	産業厚生常任委員会報告	4
	総務文教常任委員会報告	5
	行政報告	6
	教育行政報告	6
	編集後記	6

地域の課題をとらえて

3氏が一般質問



無量谷 隆

幌延町における 再生可能エネルギー について

質問 オートンルイ風力発電所の設備利用率をどのように評価しているのか。

町長 浜里地区風車の設備利用率は30%を若干下回る。全国的にも大変優秀な風車で民間事業者からの問い合わせが来ている。

質問 サロベツ国立公園の観光と合わせて風力発電のPRをもっとすべきではないか。

町長 一直線に28基並んでいる風車は世界的にも有名なで、案内標識の設置に関しては少し検討したい。

質問 送電網整備実証事業が道北に計画されているが町としてどの程度、関わっているか。

町長 送電ルートに関しては明らかにされていないが、現況の風車の整備状況を勘案すると積極的に民間事業者を誘致し幌延町付近で送電線が整備されるよう努めたい。

質問 再生可能エネルギーでの発電施設の農地などの利用も考えられないか。

町長 幌延町では再生利用が困難な農地はそれほど存在しないと思っている。今後、農林省は第一種農地に風力発電設備建設を認める方針で法令改正がなされる報道があり、今後の情報を注視している。

質問 現在、町で進めている太陽光発電施設の補助金の上乗せをするべきでないか。

町長 来年度の補助制度の拡充を当初予算に反映していきたい。

電線が整備されるよう努めたい。



▶オートンルイ風力発電所



鷲見 悟

11月26日の要望書では何を求めたのか

質問 11月26日の申し入れ(要望書)は何を意図しているのか。

町長 研究施設である500m以深の調査坑道工事への要請だ。

質問 4つの要請項目の具体的な意味は何か。

町長 具体的な中味と言われなくても特別なことはない。

質問 500mまで掘らなければ研究が出来ないということなのか。

町長 当初計画通りに進めてくれと言うことだ。

質問 原子力機構のもんじゅ点検もれ、Jパークでの放射能ろうえい事故などが起こり、信用失墜という出来事があった。文科省では予算と決算のムダを含めた抜本的改革を打ち出している。来年の9月までに施設の廃止を含めて方針を策定するとしている。このような中で平成10年10月の500m以深までの研究推進を打ち出したことにより、研究期間の延長は避けられない。

いことになると思うが。

町長 若干の変動や進ちょく状況はあるかも知れないが、ほぼ20年程度で出来ると思う。

質問 500m以深まで掘るということは、5〜6年で出来ると思っているのか。

町長 研究しながら掘削を進めていく。第3段階としてやっていくと思う。

質問 三者協定や今までの経過からすると、たとえば平成10年の時はスパイラルで500mまで掘る。しかし工事費や土壌基盤からいっても無理だということになって、平成15年頃は電源三法の予算と工事費が決定し、平成17年には350m以深ということになった。

あとは、NUMO(処分団体)の意向によるとされている。それらのことを各年度や五カ年計画の中で認めてきておきながら、今になってから500m以深を掘って欲しいというのはおかしい。

町長 今350mのスカ

フォードで降りていく。そしてたら結局350mではなく、10mとか15m少し深く掘っている。それと同じで500mちよつきりな所でそれ以上は掘らないと言うことではないと私は思っている。

総務課長 当初の計画通り進めてくれと言うこと。文科省の機構改革では、施設の廃止を含め今後の方針を検討するとなっている。ここで打ち切られても困るので、しつかりやって欲しいという思いだ。

質問 3期目の最終年度はどう締め的一年とされるのか。

町長 行政改革に取り組み総合的、計画的なまちづくりを進める。

質問 鳥獣被害対策実施隊を設置できないか。

町長 設置できる。

質問 駆除料を近隣町村並みの水準に出来ないか。

質問 国から処分場を指名することにいったが、文献調査は受けるのか。

町長 私は受けるつもりはない。国から一方的に来るかも知れないが、その時は、議会、町民に知らせなくてはと思っている。

質問 500mを掘ることにより、経済効果はあるのか。

町長 地元で働いている(原子力機構関連)人の雇用のことについて心配している。40人くらいいると聞いている。生活が出来なくなると困る。

質問 今後の課題とする。

町長 町長に就任してから、体育スポーツの貢献表彰がないのは残念である。

町長 過去に一度、教育委員会から推薦あったが、表彰審議会得不承認となった。

質問 それはどういう経過からか。

総務課長 平成16年に中学生が全国大会出場し優秀な成績だったが、基準が不明確で、義務教育でもあり、更なる期待も踏まえ、当時不承認と記録にある。

質問 改善すべき事項でないか。

町長 あやふやにしていることは良くないので、審議会を決めていく方法が一番良いのかと思っている。

質問 4月からの第5次総合計画の進捗は。

総務課長 大変に遅れているが、基本計画原案を取りまとめ、議員皆さんに報告し、策定して参りたい。

副町長 委員長は私であるが、事務作業に少し手間取った。3月には間に合う見込み。ご理解頂きたい。

質問 パブリックコメントも、議会にあげてくるのも予定通りか。

副町長 その通り年度内に進めていく。

質問 幌延深地層研究計画推進は町商工会、町建設協会との連携はないのか。

町長 今のところ予定はない。

質問 研究期間が長くなるので、三者協定に違反するのではないかと、報道機関は考えているがどう思うか。

町長 当初計画では、研究

期間を20年と限定していない。20年程度としている。

質問 要請の主旨と共に渡された「推進について」によれば、一定水準とあるが、まちの産業が一定水準にあるとは何ごとか。

町長 研究センターがある事によって200名近くの方々がいるから、客商売の所は大変、人も来てくれて大変ありがたいと聞いている。この施設がもしなければどうなのかなと考えた時、あるから商売も成り立っているというのが現状だろうと考える。

質問 では、無くなった時のことを今度真剣に考えましょう。最終の処分場候補地になり、町民にお知らせしたあと、その後どうするのか。

町長 それは一方的に言うてくると思う。ですから、一方的に言うてきた事は、議会、町民にお知らせしますが、しかしいつも言うておとり、三者協定があるので、研究センターの所には受け入れが難しいことは明快であらう。

産業厚生常任委員会報告

- 第6回 11月11日
- 第7回 12月6日



第6回常任委員会

11月11日

(1)長寿命化橋梁補修事業について

橋梁補修の実施設計を組み、発注行為を3回行ったが、1社も応札業者がなかった。

交付金事業であり、北海道と数度にわたり協議した結果、工事請負費を実施設計の委託業務に振り替えて今年度中の実施という判断に至った。工事請負費の執行はなく、急を要するため10月21日に専決処分をした。

問 26年度の予定は。

答 追加で発注した分も含めて、7つの実施設計業務が終わっており、多くの工事が出来るよう要求して行きたいと思っている。

(2)農業体質強化整備事業について

25年度の予算として、9千2百50万円の工事請負費を考えていた。政権交代による影響か、この事業に対する考え方を、いわゆる土地改良事業として実施して

いくということから、北海道としては25年度の事業申請は行わないとした。そのため、町としては予算執行できないことになった。

第7回常任委員会

12月6日

(1)町立診療所の夜間警備廃止について

町民への医療体制を維持しながら経費削減を進めてきたが、当初予想よりも繰入金(1億7千2百万円)多いこともあり、今年度も人員削減等を行ってきた。更に、夜間の警備を廃止してもやっていけることから、実施することとした。これによる削減効果は約4百万円になる。

夜間警備廃止に伴う対応は、救急玄関をリモコンで施錠・開錠する。今のインターホンをテレビ付きにして、救急患者さんを確認できるようにする。改修工事の予算は約48万円になる。

今後のスケジュールは、12月の補正予算議決後、1月中に改修工事を終わらせ2月から試行したいと考え



▲町立診療所

ている。その中で問題点等があれば改善し、4月から本格的に実施したい。

問 モニター付インターホンは、記憶できるシステムになっていくのか。

答 記録することまで考えていなかったが、予算を踏まえて検討する。

問 経費の問題でこういうことになったと思うが、こまめな対応をして行かなければと考えるが、どうか。

答 広報し、問題点等も確認しながら慎重に進めたいと思う。



総務文教常任委員会報告

- 第8回 10月4日
- 第9回 11月11日
- 第10回 12月6日

第9回常任委員会

11月11日

①住民生活交通支援対策

・総務課報告に対する委員会での質疑

問 路線まで出るのが大変なので、玄関先までの運行はどうか考えるのか。

答 これからの検討課題。

問 事前予約で、走っていない地区に対応できないのか。

答 事前予約は効率的であると思うが、それによる障

碍は何か検討したい。スクールバス、患者輸送バスそれぞれ、仕事の目的があり難しい面もある。

問 買い物などでは乗りづらいので、バスの名前変更について何も無いのか。

答 名称変更は柔軟に対応できると思う。

問 4年、5年先を見越してのバス体系を作るのが基本ではないのか。

答 必要かと思うが、今の町の体制の中でどこまで出来るかというのでも検討しなければならぬので、今回区別した。

問 交通体系については、今後も一緒に協議が必要で、

町民ニーズ調査事項も続けて欲しい。

答 今やれること、今後やらなければならないこと、それぞれ区別するが、これで終わりという気はなく、状況、需要に応じて柔軟性を持つていく。

問 自宅まで送ってほしいのは、上問寒、中間寒、問寒別東、新問寒別全体の共通事項である。

答 そのように受け止める。

問 バスの待合所に農協を検討してはどうか。

答 正式に待合所とさせてもらえるか、確認したい。

第10回常任委員会

12月6日

①平成24年度教育事務の管理及び執行の状況に係る点検・評価

・説明後の質疑

問 太陽光発電の活用方法と、その内容については。

答 幌延小学校と問寒別中学校に設置。エネルギーの授業で活用。学校で使用し、若干は売電されている。

問 全国学力調査の結果分析はしているのか。

答 教育委員会ではなく、それを専門にやっているのが学校である。その学校に対し、どう支援したら良いのかという検討をしている。

答 教育委員会ではなく、それを専門にやっているのが学校である。その学校に対し、どう支援したら良いのかという検討をしている。

①宗谷公平委員会の共同設置

共同設置する理由

・事務的経費の削減及び事務負担が軽減される。

・職務内容について専門性、中立性が確保される。

概要

・名称 宗谷公平委員会

・構成団体 管内10市町村及び8一部事務組合

・委員の選任 関係機関の長が協議して候補を決定し、稚内市議会の同意を得て選任

・執務場所 稚内市役所庁舎内に事務局を置く

・運営経費 稚内市の予算で処理し、構成団体から負担金を徴収

問 一部事務組合が留萌と連携しているが、その不都合はないのか。委員の構成人数は。

答 幌延は宗谷に移管したので、行政機関も宗谷管内の

市町村で構成したいということ、特に不都合はないと思われる。3人で構成される。

②住民の生活交通対策

常任委員会、町政懇談会での要望等に対する町の対応策が報告された。

○患者輸送バスの問寒別到着後の対応

・各戸まで送迎するように対応。

○保育園児のスクールバスでの送迎

・やはり保護者の方で対応していただきたい。しかし、



▶患者輸送バス
(問寒別生涯学習センター前)

内部協議としては、年長さんだけでも試行でやってみるようにも考えている。

○上幌延10線沢の対応
・月曜か木曜の運行を考えているが、当該地域と協議したい。

○下沼方面の1日2便の対応
・電話予約などの対応で、

火・金曜日の帰りのバスが戻る時に乗ってもらい、その帰りはスクールバスを利用してもらおう。検討しながら試してみる。

○患者輸送バス乗降場
・農協前乗降とすると二重駐車となり、行政からはお願いできないので検討している。
○買い物時間が短いので何とかならないか
・現状では対応が厳しい。

今後も住民の生活交通対策として、委員会と継続協議していくこととした。

行政報告 (口頭)

11月26日から27日にかけて、日本原子力研究開発機構、資源エネルギー庁、文部科学省に対し、幌延町における500m以深での深地層研究の実施について、要請をしてみましたので、その概要を報告します。各機関とも同一の内容

で、次の4点の項目を要請しました。

- 1、幌延深地層研究の計画の着実な推進と幌延深地層研究施設の存続。
- 2、地層処分研究開発問題に対応した研究開発の幌延町での実施。
- 3、深地層研究計画に沿った深さ500m以深の試験坑道の建設。

4、多様な分野における調査研究開発事業の幌延町での展開について。

担当省庁の文科省は、500mでの研究の必要性については、理解を示しています。なお、幌延町での研究については、国も三者協定を遵守する事を十分理解していると認識しています。

教育行政報告 (口頭)

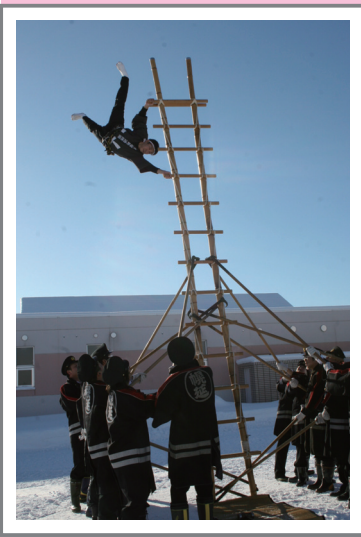
各小中学校では9月以降、学芸会、学校祭などを通じ各学年毎の学習成果を発表しました。また少年少女文化祭では絵画、習字、立体造形、読書感想文など参加部門の成果作品の審査及び展示発表を実施しています。

新学習指導要領に基づく中学校における武道授業については2年目を迎え、問寒別中学校では剣道、幌延中学校では柔道の選択の中で、幌延剣道連盟、稚内市柔道連盟から外部講師の派遣を受け、体育教員と共に

11月から順次実施しています。今後とも、安全管理に十分配慮していきます。

「いじめ・ネットトラブル根絶!メッセージコンクール」宗谷地区審査において、幌延小学校5年西澤花菜さんが標語部門で最優秀賞を、「牛やミルクのあ風景画コンクール」において、問寒別

小学校6年の大岩駿君、問寒別中学校1年の加藤巧也君が北海道教育長賞を受賞しました。



◀1月5日 消防出初式



▲1月5日 成人式

編集にあたって

昨年はTPP協定交渉やJR北海道の相次ぐトラブル、猛烈な風雨などの自然災害、そして食料不正表示と何かと話題の多い不安定な一年間でした。

新しい午年も四月からの消費税増税や一段と進む円安傾向など、私達の生活に直接影響を及ぼすものと思えます。

私達もアベノミクスでの経済効果を実感したいものです。

ところで議会議員の任期は今年が最終年度です。今期は宗谷総合振興局に編入して新たな気持ちでの町づくりでした。これからも将来を見据えて住民生活の向上を目指し町執行者としてしっかりと議論を深めて行きたいと考えています。

まずは今年一年間が笑顔あふれる午年である事を願うばかりです。

編集委員長 鷺見 悟
副編集委員長 斉賀 弘孝
編集委員 吉原 哲男
植村 敦